

米雇用統計は鈍化、製造業景況感はやや改善

ポイント① 労働需給の緩和が示される

1日発表の8月の米雇用統計では、非農業部門就業者数が前月比18.7万人増と市場予想（同17.0万人増）を上回りましたが、6月と7月の就業者数が計11万人下方修正されました。また、失業率が3.8%と2022年2月以来の水準まで上昇したほか、労働参加率が62.8%とコロナショック直前の水準に回復しました。10月の学生ローン返済再開に備え、仕事を探し始めた人が増えてきたようで、このことが今回の失業率上昇、つまりは労働需給緩和につながった可能性が考えられます。

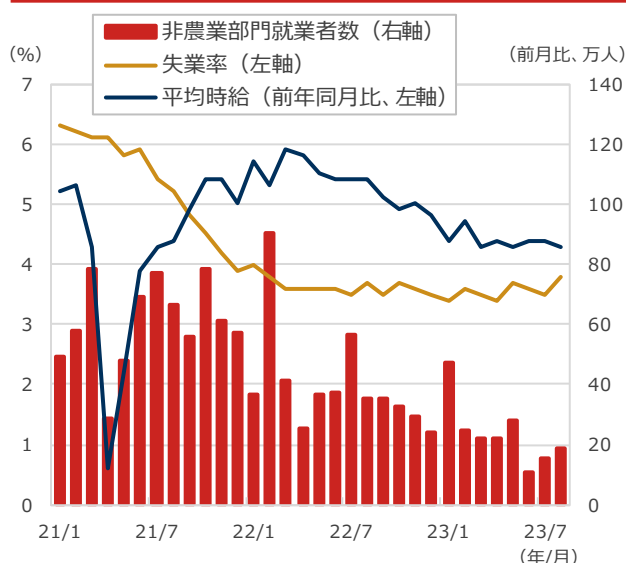
ポイント② 製造業景況感は2カ月連続改善

1日には8月の米ISM製造業景況感指数も発表され、47.6と好不況の分かれ目である50を10カ月連続で下回ったものの、2カ月連続で改善しました。新規受注指数などが7月から小幅に低下した半面、生産や雇用指数が改善したことが寄与しました。米ドル高に悩んでいた米製造業ですが、昨秋以降の米ドル指数反落などで景況感が改善し、生産や雇用にも前向きになってきた可能性があります。

ポイント③ 米国株、米長期金利が上昇

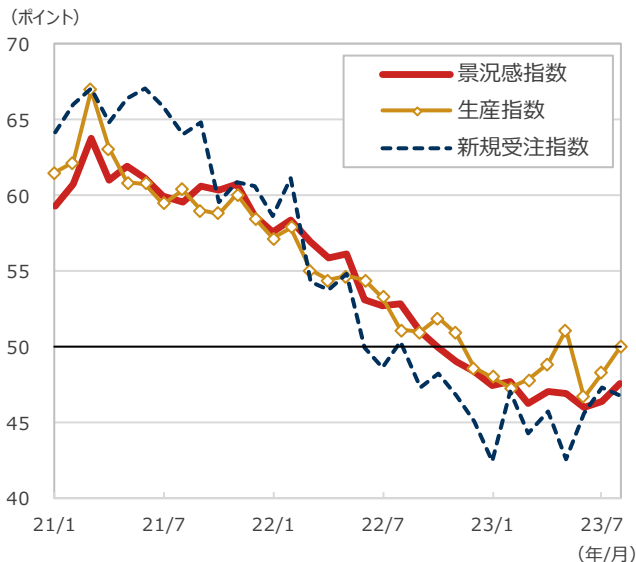
強弱入り混じる米経済指標を受け、1日のS&P500種株価指数は小幅高となり、米10年国債利回りは上昇（債券価格は下落）しました。今回の雇用統計などから、企業の採用意欲は底堅く推移する中、労働市場に人が戻ってきた（職探しをする人が増えた）可能性が考えられます。この状況が続けば労働需給の緩和につながり、サービス価格インフレも落ち着いていくことで、FRB（米連邦準備制度理事会）が米利上げの手を緩めていく可能性があります。

米非農業部門就業者数と失業率と平均時給



期間：2021年1月～2023年8月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数と生産指数と新規受注指数



期間：2021年1月～2023年8月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント	9月6日	米ISM非製造業景況感指数 (8月)
	9月13日	米消費者物価指数 (8月)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。